科　　目　　名				学年
外国事情ⅡA：Foreign Affairs ⅡA				4B
教　員　名	稲葉　和也: INABA Kazuya			
単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
1	100分×15回	必修	講義・前期	○

授業概要	アメリカ経営史の理解。1920～1930年代にかけて、アメリカではじめて経営史という学問が登場しました。このことはアメリカではすでに19世紀末以降において資本主義が急激な発展を示し、ことに1920年代に巨大独占企業が出現して、その管理問題や経営政策がクローズ・アップされたことと深く関連しています。本講義では、アメリカにおける現代企業の発達を取り上げ、現代企業の形成の理解を深めたいと考えます。

到　達　目　標	評　価　方　法
1) アメリカ経営史の基本を理解する。 2) アメリカ経営史に関して自分の意見を論理的に述べることができる。 3) 国際経済・経営の問題に対応できる実務能力を身につける。	中間発表　40% 期末試験　40% 自学自習によるレポート　20%

学習・教育目標	(F)③④	JABEE基準1(2)	(a)

授業計画	回	項　目	内　容
	第1	授業紹介	授業の概要、授業の方法などを説明する
	第2	アメリカ経営史とは何か	アメリカ経営史の意味と意義を理解する
	第3	アメリカにおける現代企業の発達①	毛皮取り商人の時代から蒸気船の発明
	第4	アメリカにおける現代企業の発達②	鉄道の発達
	第5	アメリカにおける現代企業の発達③	電信・電話の発達
	第6	アメリカ金融業の発展史①	ニューヨーク証券取引所の発展
	第7	アメリカ金融業の発展史②	J・P・モルガンを代表とする投資家の誕生
	第8	自動車産業史①	フォード社の設立と発展
	第9	自動車産業史②	GMの設立と発展
	第10	自動車産業史③	垂直統合とマーケティング
	第11	化学産業史①	デュポンの設立と発展
	第12	化学産業史②	化学産業におけるR＆Dの時代
	第13	コンピューター、情報産業史①	マイクロソフト社の発展とインターネットの普及
	第14	コンピューター、情報産業史②	ゲーム産業の始まりとアップル社の発展
	第15	まとめ	本講義内容のまとめを行う。また，授業評価アンケートを実施し，理解度や目標到達度を確認する。

自学自習の内容	レポートを課す。
関連科目	外国事情Ⅰ
教　科　書	鈴木良隆他著『経営史』(有斐閣Sシリーズ)、有斐閣、1545円
参　考　書	
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う
副担当教員	
備　　考	PowerPoint を併用して講義を行う。